1967

昭和42年度

冬山合宿記録

——信州大学山岳会
長野山岳部——

〔大滝・蝶・常念岳縦走〕

Winter Mountaineering

―― もくじ ――

1. CLより「合宿ノートから」
2. 日　記 ―― 新人部員 ――
3. コース概略
4. 各係反省
5. 概念図
6. あとがき

詩のコーナー

道　程

高村光太郎

僕の前に道はない
僕の後ろに道は出来る
ああ、自然よ
父よ、
僕を一人立ちにさせた広大な父よ
僕から目を離さないで守ることをせよ
常に父の気魄を　僕に充たせよ
この遠い道程のため
この遠い道程のため

――高村光太郎詩集より――

「合宿ノートから」　C・L 佐藤邦彦

[12月24日；安向、吉野の下宿に駒井と一緒に泊る。安向は5時半のNSB気象通報を聴くと言って寝たが、起きたのは7時10分。8時、松本駅前集合。穂高パーティ向もなく到着。遅刻するものあり。いと腹立たし。最底限のメンバーシップ。松本駅より島々へ。見送り：西郡、新谷、それに西条より渡会かけつける。島々の橋より大型トラックに荷物と相乗り。1時15分、穂高パーティより一足先に中の湯出発。荷物は1人42～43Kg。2ピッチで木村小屋。計画書提出。今日は小梨平まで。今朝は晴れ間も見えたが、山は雪。結晶が大きく美しい。夕食はラーメン。皆3回戦まで。はやばやに6時就寝。穂高パーティはどこへ行ったやら。

上空の風強く、木々のざわめき烈し。－5℃

[12月25日：昨夜はおかしな夢を見て、10時に目が覚める。その後なかなか寝つかれず朝が待遠しかった。半年以上も合宿から遠ざかり今再びこうして合宿に来ているのに、何故か自分がこのパーティのリーダーをやっているのだという実感が湧かず自分の気持に何かちぐはぐなものを感じた。そしてこの気持は最後までくすぶり続けた。

4：45起床。朝食を終え、河原に立つ。薄闇の空にボーッと朝日に染まった西穂の雪稜がファンタスチックな世界に俺を誘う。そして一瞬「アシナプルナ大障壁」ということばが、頭を過ぎる。今日は、前アルプス稜線にダブルボッカをして、荷を全部上げようと思ったが、見込違いで尾根は、意外に手間取り、片道だけに終ってしまった。不十分な資料を素に迷いながらも決断を下さねばならぬ。その資料が例え見込み違いになったとしても、パーティは常に安全圏内に入っていなければならぬ。テン場は稜線上とは言っても平らな森林帯だ。近くで焚火をする。火はいい。見てるだけでいがなごむ。4：35分は交信時間。こっちを呼ぶ声が、かすかに聞えるが、よく聞きとれぬ。5時までねばるが面倒になり止める。6：30就寝。風なし。寝息だけ。

12月26日：朝の出発準備がモタモタして、スムースに行かない。要注意。今日は小梨のデポ回収。Topの吉安、ルートを間違う。昨日のトレースに戻れずやみくもに下る。白沢左俣の崩壊した沢に出る。日頃、地図を必要とする山行をしていないための弱点を暴露。小梨で会えると思った穂高パーティに会えず、置手紙あり。皆元気らしい。安心す。トランシーバーは不気嫌。夜ウィスキーを少し。8：00PM 就寝。

12月27日：朝チラ〜ヒ小雪が舞い、このところ穂高見えず。予定：霞沢岳往復 徳本峠迄Just 60分。森林の中、Topを交代しながら行く。この間に、もろくもワッパが壊れるものあり。こんなチャチなものを買わせた装備係に不満。峠より降雪激しくなり、ヤッケを着て、急な登りの森林帯を分け入る。1ピッチ半で2400米峰。そこまで行く途中風が出てきて、頬・手が冷たい。依前として続いてくる冬型気圧配置だが、今日は本物らしい。敬意を表し、こゝで引き返すことを決意。かなり寒い。−17°C。帰りテン場近く迄きたら晴れ間が見えた。だまされた。12：20帰天。夕食までダベリング。ナベ転覆す。不気嫌。歩き方が雑だと注意。今日は焚火やめ。テントの中でゴチャ〜してる。居住性よし。

12月28日：予定は大滝山まで。

テントがガリガリに氷りつき、朝たいむに時間が食う。団装一人20kg。全部で35kgぐらいか。ルートファインディングが難しい。森林帯のために、展望きかず、また倒木越えに消耗す。予定を消化できず、時間切れ。良いテン場なく、倒れかゝった木の下にテントサイトを求める。今日で5日連続行動。皆、疲れたが、あんまり元気なし。明日は沈殿とし、暇をみてルート見つけをしよう。トランシーバーはだめ。お化けの話、凡なし。月がれい。

12月29日：朝食8時 快晴。

用足しに出たら、木々の合間に見える穂高いと麗し。チョッピリうらやましくもあるが、連中の成功を祈る。ルート偵察。明日のためのラッセルを兼ね、大滝山頂迄往復。山頂からの展望はすばらしく良かった。

穂高をバックに一人ずつ写真を撮る。3:20 PM 帰天。パーティの雰囲気は明るく楽しくて良いのだけれど、少し甘すぎはしないか。冬山らしくない冬山のために気が緩むのか。それとも慣れ合いに落ち入ったか。慣れ合ではない。"慣れ合い"というのは、各人が成すべき事を成さずまたまわりがその責任を追求せず、うやむやにしてしまう。ぬるま湯状態のことなのだから。このところメタの消耗が激しいと装備係が嘆く。この冬山が例年のに比べ特に寒いということはないのだから、計算を間違えたのではないか。一年前の今晩を思い出し、今はシェラフに入って、ぬくぬくとしていられることを感謝。

[12月30日：昨夜は恐ろしかった。倒れかかった木3本が一本の木に寄りかかり、その真下に我々のテントがある。前の晩は全く風が無かったからよかったが、昨夜は風が吹き、そのたびに"キリキリ"ときしむのだ。万一倒れてきたらどうなるかと思ったらとても安眠などできるものではない。"後悔先に立たず"である。十時ごろ起きてヘッドランプをつけ外に出る。どうやら"キリキリ"の音源は先の3本ではない。別のもう一本だ。そいつが倒れても直接我々の生命に別状はないと判断し、またネグラにもぐる。また"キリキリ"。胸にひびく。背髄を電気が走る。もし"キリキリ"の木が倒れたら、そのショックで真上の3本が落ちてくるのではないかと思ったらもうだめだ。何んと朝が待遠しかったことか。そのうち睡魔に襲われ、うトうトしてしまった。朝何事もない皆の顔を見て嬉しかったというよりも、申し訳なさを感じた。結局俺は、ズクを惜しんだのだ。危険を感じたらテントを移すべきだ。大滝山は昨日のトレースを辿り、スムースに3ピッチ目で通過。蝶ケ岳へ向う。二重山稜の部分を除いて雪は風に飛ばされ少い。長塀尾根とのジャンクションピークの雪面をTopの加藤が何の躊躇もなくトラバスするので注意を与える。斜面はトラバスするな。万一滑ぬ

を得ずトラバスするのなら雪の状態を確め、なるべくショックを与えないように早くトラバスすべし。蝶のピーク（地図のピークではない）から300米ほど下ってテントを張る。4:35 PMの交信もだめ。あと2日あれば下山できる。このまま穂高隊と連絡なしで下山してよいだろうか。トランシーバーなんか初めから無ければ、余計な心配をせずに済むのに。壊れた機械というものは、全く、人間に害を与えるだけである。どうも今度の冬山合宿は冬山のような気がしない。冬山なら、ビュンビュン風に吹かれて2〜3日の連泊は当り前なのに。今回はそれが一度もない。夜中のテントの除雪や、胸までつかるラッセルの苦労など夢の中の出来事である。冬山を甘くみるような事にならなければよいが。今日も快晴。"穂高展望ルート"を存分に楽しむ。2つ目の低気圧が近ずいた。天気は明日からは下り坂。

[12月31日]：今朝は、早く出発準備が整った。2度、予定時間より遅れているのでイラ〜〜していたところだった。5分や10分遅れても行動上で何の支障も来さないかもしれぬ。しかしそうさせた一人一人の気持のダレ、甘さを反省して欲しい。いよいよ低気圧がやってきた。10時、穂高上空にレンズ雲現われる。その形あたかも巨大なカモメの如し。さらに南西とレンズ雲。富士山には笠雲。西からは雲の津波が押し寄せてくる。常念への登りにかゝると、風も出てきてピークへ着いた時は雪も降り出す。昼メシもそこへに逃げるように先を急ぐ。常念は雪崩を心配してきたのだが、落ちる程雪は積っておらず、大きな岩が露出していた。その日のテントサイトを常念東尾根、2200米地点の森林帯にむける。雪の乱舞。風のラプソディー。

今日は大晦日。明日は下山。夜は「うちあげ」。ブランディー、ウィスキーと飲むが解放感に浸りきれぬ。下山の嬉しさも何 むない。喜びは努力(苦労)に比例するものらしいから苦労が足りなかった為か。今日 合宿5日目。ちっとも そんな長い間山に居たような気がしない。まだこれからとばかり思っているうち"うちあげ"まで来てしまった。たらふく食べ、飲み 歌を唄いて寝る。

1月1日：新年は吹雪で明けた。今日は下山。7:45分テン場を後にする。下るに従って、乾いた雪から湿った雪へ、そしてみぞれ、ついには雨になってしまった。ポンチョを着たら足もとがおろそかになり滑ったら困ると思ってつけなかった。ポンチョを着てもいいところまで下ったら、もうポンチョの必要もない程、濡れネズミだった。あとは、たんぺんとした道を歩くだけだった。濡れたスキーシトンを絞ったら、しずくで汚れた雪も、北海道(きたかいどう)に着く頃は、しずくの雪の汚れも そんなには目立たなかった。

合宿御苦労さん。拙いリーダーのもとに、みんなよく頑張ってくれました。各係は、私の要望に応えてよくその任務を遂行してくれました。これからも初心を忘れずに登りつづけて下さい。　　―終―

[記録係より：当初、「合宿を終えて」という感想の原稿を希望しておりましたが、都合により佐藤さんのすがらの「合宿ノートから」という日記風の原稿を載せました。文学的であるので、短くカットしようとも思いましたが、やはり全文を読む方が、その日への実感があり良いと思いましたので全部掲載いたしました。]

コース概略（概念図参照のこと）

日	天(気)	出発地及び時間	ピッチ数	目的地及び到着時間
第1日目 12月24日	(	松本駅→中の湯(1:15分)	3ピッチ	→小梨平 3:40
第2日目 25日	(	小梨平→6:30	6ピッチ	→尾根ST 12:10 (徳本峠より2k地点)
第3日目 26日		S・T→6:30	道に迷いたためおよそ7ピッチ	→小梨よりSTまでもどる PM12:35
第4日目 27日		S・T 6:30	5ピッチ	→カスミ沢尾根よりSTまで PM12:15
第5日目 28日		S・T 7:35	7ピッチ	→桧見より1ピッチ地点 ST PM3:20
第7日目 29日		STより偵察 9:00	5ピッチ	→大滝まで……St PM3:20
第8日目 30日		St 6:55	5ピッチ	→ 出発ケ岳ピークより200m下った所St
第9日目 31日		ST 6:10	6ピッチ	→ 前常念東尾根中間点 St(2200m地点)
第10日目 1月1日		下山 ST 7:45	北海道まで4ピッチ半	バス→松本

―― 終 ――

※会計報告（吉野）

収入　合宿費 3900(1人)×11(人)＝42900円　計 43100
　　夜会さんカンパ　200円

支出

(1) 食糧関係

下カギヤ	16346
肉	1364
かりんとう	730
ミスズ豆フ	532
米粉	192
モチ米代	3300
パン代	7453
小計	29920

(2) 装備関係

マジック	50
赤布	63
ロープ	440
メタ(4)	270
針金	30
ロープ	135
白ワセリン	190
フィルム	360
ガソリン	2900
電池	180
装備費	110
ラジオ修理	2100
小計	4828

(3) 梱包　小計 610

(4) 気象　小計 110

(5) その他

遭対	1100
切手	15
TEL	85
荷物	5000
医療	1010
小計	7210

支出合計 42678

差引 43100－42678＝422
今週末（1月29日）までに請求され，支払われたものです。

冬山合宿私観

1年　池内寛幸

1. プロローグ

冬山――それは若き者の胸を踊らせ　山へ行く者の血潮を湧きたたせる。

冬山――それは長い間の夢だった。幼い頃からの憧憬のものだった。この日を夢みて　どんなにか　胸をふくらませ　期待に想いをかけめぐらせたことだろう。この一ヶ月間　トレーニングに気象に　冬山技術に　多くの犠牲を払って　懸命に尽力してきた。自分個人のちょっとした手ぬかりが　アンシデントに結びつかぬようまた先輩たちの（先輩といってもやはり人間であるから）わずかな油断や失敗に対処できるよう最大限の注意を払って勉強してきた。

だから家族会議に呼び出されて強い反対に会ったときもこの一言によって好転させてしまった。「自分の道を歩ませてくれ」これだけのことを言うには相当辛かった。だが！ぼくは　自分の人生を自分で歩いて行く自信を持つ。言うだけのことをやっているという確信を持つ。

2. 日記

12月24日

佐藤leaderは怒り人　怒らせてしまったらとどまるところを知らない。穂高パーティと別れて歩き始めた1ピッチのときも妙にこの事がひっかかって　精神的に重圧感を感じた。1歩位前の人から遅れてしまっても　いつ後からどやされるかと思ってヒヤヒヤしていた。実際誰でも1ピッチ目は疲れるらしい。休憩のとき汗をふいている人を見てほっとした。

第1ピッチ　才三池を通り過ぎた。緑と白とこげ茶の

対照――まだそんなに雪がなく全て暖いつくす程ではないがそれが返ってあわれな大正初の風流さを描き出していた。

テン場は小東平のふと記憶の中夏の深い感情を思い出した。一体あの空虚な華やかさはどこへ行ったのだろう。今ではもうもはやその姿はただ白い雪がそれを埋め尽くしている。

わずかにうずくラプソディをもみ消すかのように雪と風は増々強くなって行った。

12月25日

入山第一日目は眠れないもの。氷壁の人たちもそうだがぼくもいつもそうだ。異常な興奮が朝まで続いていた。

まずいエッセンを消ませてテントを出てみると昨夕とはうって変ったいい天気。冬の冬空に星がざらざら輝いていた。北岳のこもには青空にくっきりと雪煙を上げた奥穂・前穂がそびえている。あんな所を歩けるようになるのはいつの日と胸をふくらませるのであった。

雪は20cm強であるが明神まではうっすらな舗装道路歩くことが実に楽しい。白沢入口付近から左側の尾根に上がる。わりあいと急な斜面で途中からアイゼンをつけたが(それ程のこともないのではないか?)雪はほとんどついてなく岩の多いところであるからアイゼンをつけるにはもったいないと思う。尾根に出たらだんだん雪が多くなって来た。前アルプス稜線近くでは60cmこうもちがうものかと驚く。途中ドップリroute mistakeがあったけれど12:20テン場着。昨日の予定ではダブルポッカであったが途中で中止になった。

で設営のあと焚火ぬとして勝をとる。焚火をかこんでのなごやかさはまた格別なものであった。

12月26日
昨日の荷を取りに再び小梨平へ。ところがまちがえたトップ・ルート・ミステイクで見知らぬ沢へ。しかしわりあいに急で水なども多くあっておもしろかった。10:30小梨平着。会えると思っていた穂高party の人達には会えず。荷は15kgたらずであったが細いツェルマットの靴をアイゼンベルトでしめ過ぎたのか土踏まずが靴ズレで痛む。でも末は、ブールかレビュファーかと元気づけて頑張った。今日も焚火ぬれものはすぐかわく。午後になるといつも小雪が舞うけれど山の雪は美しい。雪の結晶がそめきひらひらと落ちてくる。大きくてはっきりしていておとぎの世界へ来ているようだ。

12月27日
完全な冬型 大陸に1062という超高圧あり。朝から風強く寒い日であった。霞沢をめざして。徳本小屋を過ぎる頃は風雪は強くなって来た。寒さも厳しくほとんど動かない。ピッケルを持つ手もかじかんで来る。登りのラッセルの辛いこと……峠までの雪は非常に疲れさせピッチをおとした。結局気圧配置に敬意を表し峠より2ピッチ行った2420mピークより引き返す。霞沢岳attackは失敗に終った。ビバーク体制も準備し完全装備で来たわけであるがいざ帰らむとすると惜しいようなあっけない感じがする。せめては木のない稜線までと後髪をひっぱられる思いであった。

12月28日
わが山の師匠氏に「そみ林は一度して雪が多い」といわれて来たがまさにその通り。大滝をめざしてただラッセルに明暮れた。不思議なことはあるもので毎日みんなで顔をかしげては考える。気象のこともあるがいくら冬型配置となっても低気圧が通っても吹ぶかないし松本へ雪が降っても荒れない。昨日も夕方

に比べたら太陽が頂点にいた。既来、標高の差が300m以上イズハラ
冬期間が15m以上となったら北アは無雪という既説はまちがいで
あったのだろうか？少なくとも前アルプスには適用しないと考える。

12月29日
ほんとうは今日は沈殿日で考えていたのに大滝山まで突然、偵察ということ
になった。重い荷ではうっせんしが「ばかばかしかくらいとleaderは思った
のであろう。------[中略]------

3、エピローグ

こんな楽しい合宿は初めてだ。山を下りるときにもっと山にいたいなと思った程だ。
それは一口に言ったらC.L.の信用主義に起因する。だからわれわれは人間関係に
煩はされることなく自然に触れることが出来た。その意味で佐藤C.L.に感謝の念を奉
げたい。冬山はすばらしい。ほんとにその表現には言葉を絶する。ぼくらが行って来た
所は雪もなく天気もよく ほんとの冬山でなかったかも知れない。だが冬山
の美しさだけは有していた。それだけは堂々と言い得よう。そんなに苦労もせず
いいところだけを取って全く幸運だったと思っている。

提言——テルモを個人装備にしようではありませんか。合宿で持
って行かなかったのは大きな失敗であると思う。核線歩きが少なかったからい
いようなものの雪を食うのはいただけません。ポリタンは凍ってしまってあまり
役立たず。休んだら冷るから暖をとる必要がある。テルモはアカデミ
ックルは近代装備だと思うんですがね。

"個人日記"

冬山合宿　　1年　大谷　敬

[12月24日] 松本 → 上高地

島々からトラックに乗り込んだ。21人の人間とその人数だけのザック。大型トラックもイッパイ。だれかしらともなく歌い出した。今回の合宿では「----小麦色したい---」というのがテーマソングになりそうな。トラックは中ノ湯止り。即昼メシを食って Packing をなおして出発。第1日なのでザックが肩にくいこむ。

[12月25日] 上高地 → 前アルプス稜線

昨日の発表では今日はダブルボッカで全部稜線に上げるとのこと。後ろ足をけるのでツルリツルリとすべりながら取っ付きに着く。下から見上げるとフェーとためいきが出た。やっぱり相当に急。雪がなくてカリカリ。ちょっと遅れたがなんとか-----。稜線上は雪が多くなだらかなところ。意外に余裕取って、今日のダブルボッカは取り止め。三晩の宿をバッチリ設営。

[12月26日] テント ⇄ 上高地

昨日は稜線上で迷って遠回りしたので、今日は見通しを良く見ってイったのだが又迷う。雪が少ないので、降られそうならどこでもえっから降りると。一年生にはえらいめいわく。最後は、沢に入って------。スパッツを見ると両方ともビリビリ。歩き方が悪いんだな。登りは昨日より荷は軽いし感じがわかってると楽だった。

[12月27日] 霞沢岳往復

1ピッチ歩いただけでワッパボッ。歩きにくいなと思ってたけど、1ピッチでボッとは----。完全に冬型の気圧配置で冬らしい天気になった。雪が降り風が吹いて手足の先が冷たい。ラッセルがはかどらない。昼メシのとき引き返すことになった。帰るときの楽いこと。テンバ近くなると天気が回復。今日はメキ火をした。

[12月18日]

今日からはテンバからテンバとテントを建てはずしこわしていく。昨日まではダブルボッカとサブだったので今日は荷が重い。ラッセルが順番が来ると大変。倒木が増えだしたこるから道がわからなくなりだして、歩きにくくてしかたない。あっち行ったりこっち行ったり。雪が降りだしたのでいいところでテンバを、明日はベースストップ。

[12月29日] 涸殿 → 大滝山往復

8:00 エンゼン。夜にはもったいないよい天気。案の定[illegible]に行くと発表。

穂高の展望コース。大滝までトレースをつけて引き返す。大滝からの穂高連峰は、すばらしい。明日はこのピークも通過だろう。

[12月30日] テンバ → 丸葉が岳

昨日のトレースをポンカラポンカラ。ザックも大分軽い。大滝を過ぎると、アイゼンにかえて、ピッチが上る。風は強いが、天気はいいので、どういうことはない。ラッセルはかいし、登降もしれている。今日が一番やけたろう。

[12月31日] テンバ → 常念小下

最もきつい、最後の登り、さすが常念の登りはシコかった。明日下山を思って一歩一歩------。常念の下りも意外と長くて、ガラガラで、足首が疲れた。森林帯に入って雪が深くて何度も頭から突っこんだ。今日げうち上げ。

[1月1日] テンバ → 松本

下るにつれ雪からみぞれ、さらに雨。2ピッチでびしょぬれ。雨具もつけずに須砂疲まで一気にとばす。道もだんだん雪がとけて、どろんこ。[illegible]の50分くらいは、かけ足ぐらいの速さ。それで先番ついて行ってた。もっと[illegible]もらうから。

—— 終 ——

「人間の生活記録」

[12月29日] 1年 [illegible]

[illegible]、荷物は[illegible]よりトラック、人間は島々より[illegible]

[illegible]

[12月30日]

2日目 [illegible]のため、荷は軽い。屋根上までが[illegible]

ようし、しかし[illegible]できず、焚火もし、体が暖まる。テント内で[illegible]

今後気をつけること。

[12月26日]
小梨平デポ回収・下り道をまちがえ、白沢の大崩壊跡を下る。スリルあり。しょっぱい回収後尾根上の二ピッチ目で完全にばてる。C.L他の部員にメイワクをかけて申しわけない。苦しかった。

[12月27日]
霞沢往復の計画、天候悪く、冬将軍に敬意をひょうして、徳本より登った広いPkで、引きかえす。風雪の中のパン ヨーカン と水のうまかった事。

[12月28日]
三日泊ったテン場をあとに、大滝山に向かう。ラッセルがひどいところ多く、大変しごかれる。横尾12時通過、倒木ひどく道見失う。尾根上の平にテント設営、たいへんしごかれる、夜テント内で話がはずむ。

[12月30日]
蝶ケ岳まで行く予定、サスペンダーでテントをかつぐ。シゴかれる。最後までかつぎ通せず吉安さんに代ってもらう。後指摘された。

[12月31日]
前常念の下での大晦日、何かむなしい。食後反省会を行う。けじめがない。あまやかしの感がある。天気良く、これが冬山だと思ってはこまる。本当の冬山はもっときびしいもの。トレーニングなどはりきり春山に入山しよう。がんばれ　　―― 終り ――

"日記"　　1年T　175　安間 孝治

[12月24日]
今日は、バテないと思いながら歩いた。1ピッチ目はきつかった。

[12月25日]
今日は、快適。奥穂は雪を振かし、小梨の雪の原と、オトキに分れるかどうか。景色、上高地で一日、ボーンとしていたいと思う。ホントの稜線を展望する時がやってくると思うとやけに美しく、またものすごく感じた。前アルプスの稜線は[illegible]である。

[12月26～27日]
[illegible]後も気軽にゆらりゆらりとしていたい、なぜ山にまく[illegible]せく動かされるのか[illegible]

[係反省]　食糧

大きな失敗もなく、最初の目標は、ほゞ達成出来たと思います。個々の気付いた点を反省してみると、

① 味付けを簡単にすべく調味料にスープの素を多く使用したが、味にくせが無く、雑煮、ラーメン、マカロニなどに良いが、単調になる恐れがある。しかし個型なので、レーションにはたいへん便利です。

② ヤキソバは量は多くない（127g/人）が食べやすく、作りやすく洗濯日には大変良いと思う。

③ 朝食に200gのフランスパンを使用した。これは汁などと一緒に食べればうんと食べやすくなる事とエッセンに時間がかからない点は良いが、かさばってしまうので形を一考すべきだと思う。しかしもう少し行動が長くそして、激しくかれば空腹感を感じると思う。

④ 昼食に用いたチョコレートは、冷えると、かたくなり、味が悪くなって食べにくくなるので品質の改味が必用である。ようかん、みかんは好評だった。

⑤ ビンチフードは、コンバフードとなってしまい、その効力は明からなかったが、これは今後の研究題目だと思う。

⑥ 用1人分り800g前後の時、包装紙、梱包のダンボールなどの重量を入れると約2割の増加となる。（これは、ペンキを塗ったダンボールを使用した場合です。）

⑦ 分配が、もちの重量計算を誤ったこと。モチ米とモチ粉は重さが変るので、今後どちらの数（グラム）で計算するか明確にしておいた方が良いと思う。

以上のような点を反省し、今後の改良の参考となる事を望みます。

冬山合宿

矢野 勲

12月24日、冬山に行く日が来た。ただそう考えるだけで何だかちっともわからない。ただサックの重さが肩にかかる。ただ松本駅に行くだけなのに。「今山からおりた所ならいいのにな」。そういう考えが頭の中をかすめる。ただ考えただけなのか本心なのかわからない。中の湯までなんとなく行く。トラックをおりる。上高地までトラックが入ることを願っていたのだが、やはりボケになった。山の寒気が顔の横っらをかすめて行く。サックを背負う。

歩く。一歩歩く。これから先下山のことを考える。十歩歩く。今日の行程のことを考える。二十歩歩く。一ピッチだけを考える。あとはつらい。苦しい。どうしても歩かなくてはいけない。とまるうちにトンネルには入る。くらい。そして、又つらい。1ピッチだけもつこやろう。そして又歩く。ただ冬山という感じがしない。雪は少いし、あつい。しかしどうか今日1日終った。九分の一終っただけだ。早く下山したいなという考えがわいてくる。まだ始まったばかりではないか。自分によくしいをかけてねる。ながながねれない。いろいろな思いが全身にあいてくる。なんだかこうふんしているようだ。

ダブルのシュラフはあたたかい

12月25日

今日も歩かねばならない。急な登りになった。こんな所を登らねばいけないのか。まだまだ雪は少い。今日はサックが軽い。ヨカッタ。ヨカッタ。空まで行く。雪がでてくる。道はない。1日道ばかりだ。それに加えてたきな尾根がたくさんある。時間は十分ある。まあゆっくりやるべえ。そう思う。テン場をさがしテントをはる。つりごりにたきびをする。「たきびはいいなあ」小供のように心がよろこぶ。なにしてあたたかい。夕めしをくらう。早くも自ゴハンがたべたくなる。さあねろう。ねろう

12月26日

朝起きる。やはり山の中にいる。そしてきらきらと光るテントの中にいる。テントをたおすことも、立てることも今日はしない。道をはずす。しかし楽しい。道のない所はいい。ただアイゼンに自信がないので時々おっかなくなる。昼食のミカンがうまい。このうまさだけは下界で

あじわえないものだ。又、昨日の道を登るのが、うんざりする。
二日…4日 力が抜けたようになる。「ゴール場は上にあるのだ、足を動かせ
必ずつく」自分にいいきかせる。一本入れた時のあめがうまい
又、自分にいいきかせる。「お前は元気が出たのだ」相づちをうつ
そうだ、そうだ

12月27日

今日は何日目だろう。指おり数えて見る。もう4日目だ。まったく早い。
今日は自分もラッセルするな、歩き始めた小さな登り下りがたくさんある。
サブザックは快よい。氷点下 17°C はそんなに寒くない。
ラッセルする時気持よく足がしずむ、にくいほどに。どうこうしている
うちにゴール場につく。

12月28日

今日から、又重いものをかついで縦走開始だ。ザックをかついでのラッセル
は楽になると苦しい。昨日の快よさとはうってかわったものだ。
後半倒本群になやまされるとうとう道をみうしなう。それをよかろう、
皆はどう思っているかしらないが、広い所に出る。やはり倒本
の中だ。「明日は池」うれしい言葉だ。

12月29日

天気快晴まずいなと思う。果して、ていさつ[illegible]に出発。林
タキまで行く。前の人がラッセルしてくれる。俺はその後から前の人の作っ
た穴に足をつっこむ。ただそれをくりかえす。単純な動作だ。全く
数学的図形の動作だ。トップを交ぜる。自分がラッセルするときは楽い
ただし荷物のない所に限る。前を見る。白い国がずっとつづいている。
中に木が点点って立っている。この美しい国に俺は一番初めに入る。
なんだか悪いような気持だ。この美しい白い国を俺の足、それも足の上に
変なものをつけた。それでこぎまわるのはどうも気がひける。ふと見上げる
松本の町が見えた。とたんに寂しくなる。美しい女のこが恋しくなる。そして
自分がみじめにさえ感じてくる。後はそのことばかり思う。

12月30日

あと二日あれば市街地に出られる。今日が終れば、あと1日だ。あと1日に
なるのだ、歩く。あと1日になるために歩く。山がきれいだ。

この美しい山を俺の恋人に見せてやりたい。いや町にすんでいる美しい人に見せてやりたい。そして自まんしたい。どうだ美しいだろう。コセコセとしている人に見せてやりたい。見せないか惜しいかな。美しい人は自分のおよばない美しさに落ちこし、気の小さな人はこの大きさに圧倒されて、生活できなくなるかもしれないな。まあいいや とにかく美しいのだから、とにかく大きいのだから。

12月31日

同じような朝がきて、同じように出発する。一ヒロ…今日 荷物が木にひっかかる。「ちくしょう」の連発だ。今合宿最後の登りにかかる。長い長い登りだ。せめてこの常念の頂上までこの荷物を上げなくちゃ。これを登り上げれば白いゴハンとおいしいお茶しかもガラスの入れ物での飲めるのではないか。おいしい。あおいしるこがたべれるではないか。歩け。もう一歩歩け。そうだ それでいいんだ。ほらもう少しで頂上だ。今宿もおわりだ。富士山も見えるし、頑張れるさ。今日はおおみそか、又歩いた とうとう今日の行動は終った。テントの中の雰囲気は今日のつらさを忘れさせてくれる。紅白歌合戦を聞く。「しあわせだな」加山雄三が俺し信太の若大将の役割にきってくれた。「しあわせだなあ」

1月1日

今日は正月いよいよ松本に行けるわけだ。美しい女の人を見れるわけだ。さあ終った。歩いているうちに雪が雨に変る。この雨はいったい俺たちをかんばいしているのかな。全身びしょぬれになってしかも歩かねばならないなんて。まあいいや。とにかく終ったんだ。風呂でもうたおう。

医療係の反省　　矢野　勲

今度の冬山の医療は、どうも悪い所だけでますかったことを深く反省しています。初めから入山の前日にやっと薬がそろうなどと動きの少なかったし、先輩諸氏に御めいわくをかけたことを申しわけないと思っています。でも入山中は薬もセイロガン三つぶだけで、さい心配していたほどのこともなかったことは、大変よかったと思うし、それにもまして全員無事に下山できたことは幸いだと思って安心しております。これで大変勉強になり今後のことにも役立つことだと思います。

ラーさんよ（アホーで）

いよいよ下山，みぞれから雨降り 全身ビショ濡れ
しかし心は明るくはづんでいた。合宿を終えた充実感なのか
あるいは別のものなのか，快調に砂須度へ歩き着く
下山，しかも平な道で二度ころぶ 注意力不足、バランスの
悪さなのか少し情なくなった。だが今日は山行を終えた
心よい疲労でいっぱいだ。

冬山合宿装備反省

人数が多いということでカマテンを使用したのであるが
20人は少々無理である 15人が最高であろう，その為
不参加者がでたことは 装備係として幸か不幸か，生活
状態は快調であった。重くて凍りつくとどうしようもない
ことが欠点である 背負子が悪く重心の安定さが無
かったことはミスでした。燃料の消費はメタを除いて大量に余り，ガソリンは春山に使用したい
いつものことながら 合宿中にこわれたりするものがあり 周期的に部品の取り替え等望みます。

梱包係

この役，どんな役であろう，梱包ネパールの遠征の記録に載ってたっけ，夏山でもたしかなかったはずだ，冬山の荷作りはどうしたらよいか，ダンボールと一斗カンはどうして手に入れるかだ，ダンボールは毎日アカギヤに足を運び，ゴッヘルする，今度はダンボールの防水の点，ペンキを塗る事，ペンキはどうしたら手に入るだろうか，松本のうから 手に入りそうだがだめ，ある所からタダで手に入る，このペイントは成功，合宿中で反省したことは，ダンボールの仕上げの失敗，最後のガムテープのはり方，それとダンボールの大きさの点ですぐ考えねばならない，ガムテープの点は，最後になる場所はペンキを塗らないでおく事，そして，ガムテープを布製のものにするかどちらかである。この解決うはやっぱり布のガムテープが良いと思います，梱包係は合宿前が最高のスクがいる係です，何んもがやりました

オワリ

12月27日　霧沢岳往復

1ピッチ歩いただけでワッパ、ボッと歩きにくくなったと思ってやはりピッチでボッと[illegible]。完全に冬型の気圧配置で厳しい天気になった。雪が降り風が吹いて手足の先が冷たい。ラッセルが捗らない。

昼メシのとき引き返すことになった。帰るときの楽しいこと。テンバ近になると天気が回復。今日も無事でした。

12月28日　テンバ⇒?

今日からはテンバからテンバへとテントを[illegible]行く。昨日はアイゼンが[illegible]。今日は荷が重い。ラッセルの順番が近づくとうんざりする。[illegible]道が分からなくなりだして歩きようとうまくいかない。[illegible]雪が降り出したのでいいところでテンバ。明日はロドノーストップ。

12月29日　[illegible]往復

[illegible]穂高の展望コース。大滝までトレースをつけて引き返す。大滝の[illegible]槍は下ばらい。明日はこのピークも通過だろう。

12月30日　テンバ⇒蝶ケ岳

昨日のトレースをポンカラ、ポンカラ、ザッと大分楽。大滝を過ぎるとアイゼンにかえてピッチが上がる。風は強いが天気はいいのでどうということはない。ラッセルはあるが登降も[illegible]。今日が一番楽だろう。

12月31日　テンバ⇒常念下

最もきつい最後の登り。これが常念の登りはじめ。明日下山を思って一歩一歩……。常念の下りも意外と長く[illegible]。森林帯に入って雪が深くて何度も頭から突っ込んだ。

今日はうちあげ。

1月1日　テンバ⇒松本

下りにつけ雪から[illegible]。さらに雨。ピッチでどんどん[illegible]。もつけ下りに細心注意。[illegible]雪が[illegible]。終りの30分くらいは[illegible]。もう冬山合宿も終りだから。

12月27日

[illegible] 不安、期待 [illegible] 緊張した毎日である。[illegible] 雪が降り始めた時 ふと夏山の [illegible] 思やられる

12月29日

[illegible] 冬山 [illegible] 毎日が勉強になるような自信が [illegible] 出来てきたような気がする。[illegible] 一つでも素晴しい収穫だと思う

12月30日

[illegible] 考えた。上級生に反意を表明するのは大切なことであり [illegible] 下級生の配慮の中に上級生から配慮されるような [illegible] 疲労を見せない人から [illegible] 自覚が [illegible] 思う。[illegible] 人は どう考えていらっしゃるか

12月29日

[illegible] 一番多くの [illegible] 日は [illegible] すべてにつく [illegible] 時間は [illegible] 意味を [illegible] 明日 [illegible] 日 [illegible] 収穫にしてあこう。

12月29日

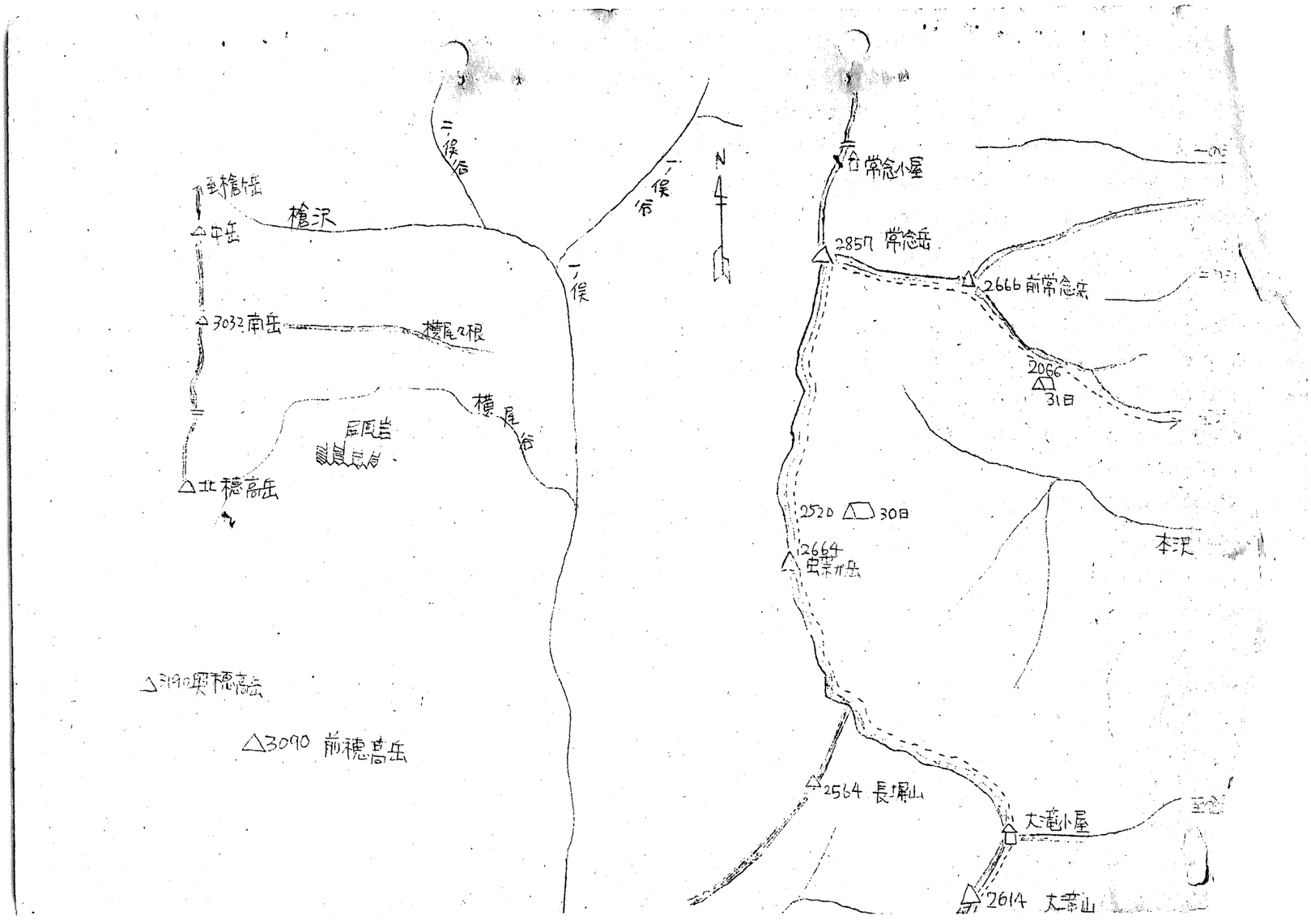
10歩歩いて一息し 20歩歩いて [illegible] 30歩歩いてハーハー [illegible] 明日は [illegible] 一息。

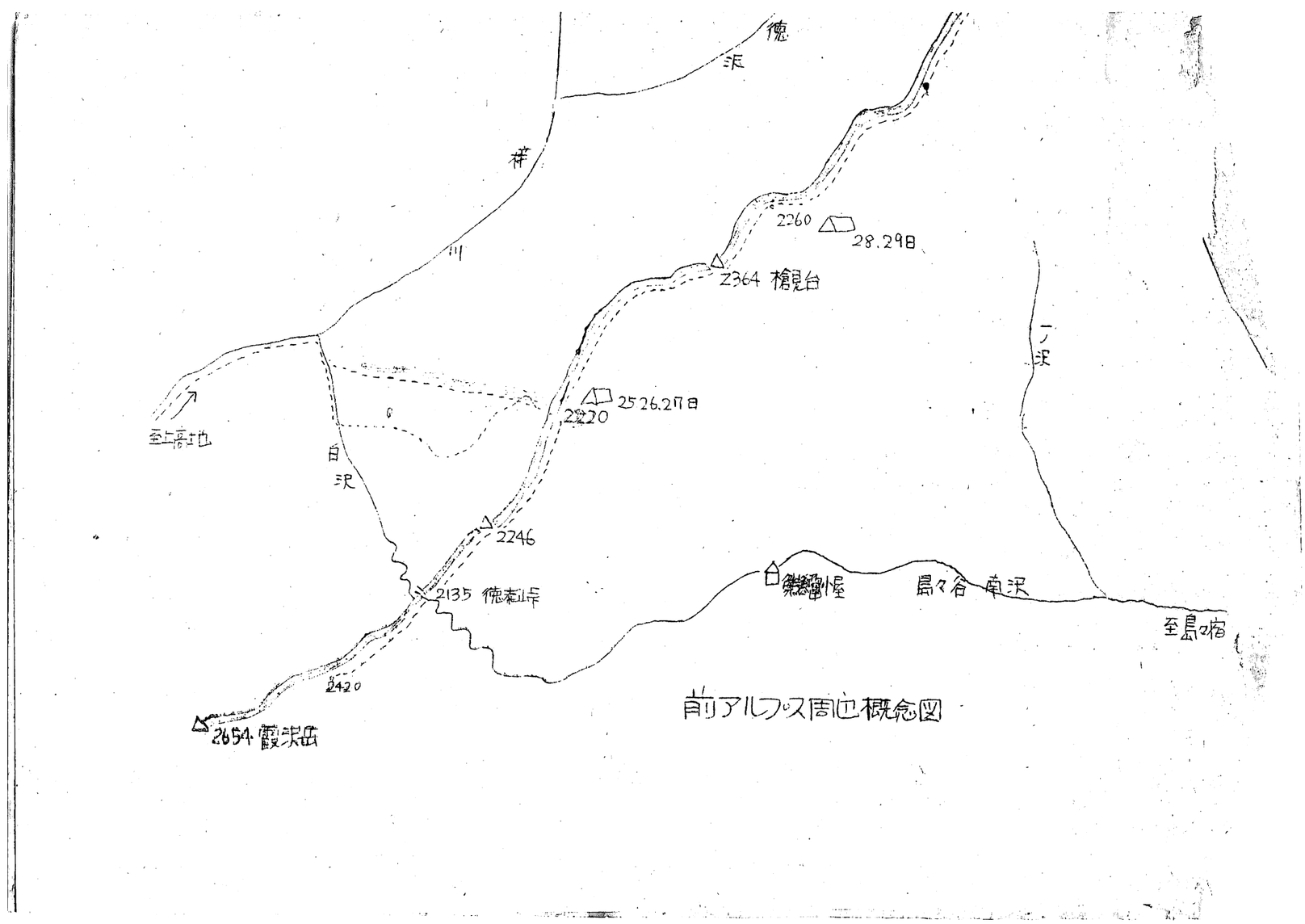
12月31日

山とは何であるか。[illegible] 冬山終了後の [illegible] 期待したい。

12月31日

[illegible] 自分が [illegible] 変っていようとは、全然ピッチ [illegible] 食べたい、毒舌が [illegible]


至槍ヶ岳
槍沢
中岳
3032 南岳
横尾々根
横尾谷
北穂高岳
△3190 奥穂高岳
△3090 前穂高岳
二俣谷
一俣谷
一俣
N
常念小屋
2857 常念岳
2666 前常念岳
2066
31日
2520
30日
2664
中常念岳
本沢
2564 長塀山
大滝小屋
2614 大滝山


徳沢
梓川
2260
28.29日
2364 槍見台
一ノ沢
至上高地
白沢
2526.27日
2220
2246
2135 徳本峠
熊笹小屋
島々谷
南沢
至島々宿
2420
2654 霞沢岳

前アルプス周辺概念図

―― あとがき ――

全く、快晴にめぐまれ、元日に下山出来たこの冬山合宿も冬の持つ一面であることが認識出来たと思われる。幸せである反面、冬のほんとうの厳しさに遭遇しなかった点からすれば少々不運であったと感ずる。

今回の記録は、特集として1年生による日記を載せてみた。だが期日までに提出せよということがはっきり守られずにあった事は誠に残念であった。なかなかきちんと行うべき事を守ることはむずかしいとは思うが、決して不可能ということはないから締らあてはならないと思う。

合宿中の経験を生かし、次の山行に役立てていく心構えが大切であると思う。

記録として不完全ではあるが、どうか上級生となった時、この記録が役立つことを望みます。

（文責）藤本

（信州大学昭和48年度冬山合宿記録係より）